



通常理事会で挨拶する藤巻司郎会長

通常理事会を開催

6議案を審議、総支部長等会議も開催

5月28日、平成27年度第1回通常理事会を開催し、平成26年度事業報告及び決算など6議案を審議・承認した。当日は通常理事会に先立ち、総支部長等会議も開催し、通常理事会の主要議案等について検討した。

日造協は、平成27年度第1回通常理事会を5月28日(木)、午後3時から、東京都千代田区紀尾井町の(公財)都市計画協会・会議室で開催した。

通常理事会は冒頭、藤巻会長が挨拶。「造園建設業界を取りまく最近の状況を見ますと、日造協として長年にわたって要望・提言活動に取り組んできた労務単価や一般管理費等率・現場管理費率の引上げ、ダンピング対策の強化、適正な利潤が確保される予定価格の設定などの措置が講じられるようになり、「アベノミクス」による公共事業費の維持・確保とも相まって、ようやく経営環境が改善しつつあると感じております。

このような中、当協会として昨年度は、業種区分の見直しなどの要望・提言活動の実施、社会保険等未加入対策講習会の開催、職長・安全衛生責任者教育講習会の開催開始、富士教育訓練センターの建替えへの支援などの諸事業に取り組んでき

たところです。

この間の皆様方のご尽力・ご協力に、厚く感謝申し上げますとともに、引き続き、激動する情勢を着実に受け止めながら、この4月からの「担い手3法」の本格的な施行に対応し、担い手3法の施行内容の周知・徹底、若手入職者の確保、技術者の育成、やりがいと誇りを持てる就業環境の整備などに取組む一方、将来の発展を見据えた活動領域の拡大などに取組み、これを通じて安全で快適な緑豊かな美しい国土環境づくりに貢献していきたいと考えております。

本日は、平成26年度事業報告、決算及び通常総会の招集等につきまして、ご審議をいただきます。今後の日造協の運営につきまして、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます」と述べた。

その後、「①平成26年度事業報告及び決算について」、「②平成26年度公益目的支出計画実施報告書について」、「③平

樹林

日造協理事、(株)森造園 代表取締役 森 茂



イサムノグチ氏と重森三玲氏の出会

香川県高松市に彫刻家イサムノグチ庭園美術館があります。彼が79歳の誕生日を迎えることとなった時、そのお祝いとして、自らこの地に庭園を造ることで、「未来への贈り物」としたのです。

石と向き合い、彫刻作品や作庭を披露することで、自然観、世界観を人々に伝えてきた。それは古くならない、今の美を私達に与えてくれます。

1988年に没して以後も、各地で依頼を受けて設計が進んでいた作品は、完成にまで至りました。

全国各地に作庭を残す著名な作庭家の重森三玲氏は、「永遠のモダン」を作ることに精進しているんだといった。

京都東福寺をはじめ多くの名園を手掛け、松尾大社の曲水の庭、上古の庭を最後の作品として残しました。

四国にも師の手掛けた庭が多くあり、四国八十八ヶ所参りの寺院や個人邸のお屋敷にも名園を残し、文化財的保護に進んでいる庭園もあります。

茶道や華道にも長けていた先生は、お茶をいただくのは「宇宙を飲んでいるんだ」と豪語していました。

実はつい先日の某テレビ局番組で生で話を聞くことが出来ました。これも時間と空間が作った感動シーンでし

た。実に豪快な方であつたらうと想像できます。

さて、ここまで読むと、あのことを言いたいのかと想像した方もおられると思います。

イサムノグチが重森氏を訪ねます。パリ・ユネスコの庭を手掛けるにあたり、イサムは重森と共に阿波鮎喰川へ石の選択にいきます。

ここで80石の緑泥変岩(青石)を選択して運び出し、徳島市で仮組をした後、ユネスコで作庭したということです。

この交流がきっかけとなり、香川庵治石の産地である牟礼町にアトリエを持つことになりました。

この2人が日本と世界に残した作品は其処を訪れた多くの人々に感動を与えてきたであろうし、これからも新鮮な美を味わえると確信しています。

また、その生き様は多くの新たな彫刻家や作庭家を誕生させてきたに違いありません。

「未来への贈り物」

「時間と空間」

「永遠のモダン」

よき時代を豪快に生きた二人の出会いに感謝したい。

成27年度通常総会の招集について」、「④会費徴収規程の改正(案)について」、「⑤会員の入会について」、「⑥支部長の承認について」の6議案を審議・承認した。

そのほか、平成27年度通常総会議案及び議決事項について、「①役員補欠選任について」、「②重点活動2015決議(案)について」、報告事項として、会長、業務執行理事の職務執行状況、平成27年度造園建設功労者等の表彰についての報告を行った。

あわせて、当日は同会場午後1時から、総支部長等会議を開催。平成26年度事業報告及び決算など、通常理事会付議案件をはじめ、「会員拡大プロジェクト」の推進、東日本大震災対策本部の復興支援本部への移行及び緑の再生等の復興事業への支援活動方針、公益目的支出計画完了後の日造協活動の方向性など、今後の日造協の運営についての8つの議題について検討、報告を行った。

平成27年度 全国安全週間

7/1～7/7 実施 6/1～6/30 準備期間

平成27年度全国安全週間が、厚生労働省、中央労働災害防止協会の主唱で、平成27年6月1日から6月30日までを準備期間に、7月1日から7月7日まで実施されます。

平成27年度の全国安全週間のスローガンは、安心して働くことができる職場づくりを目指し、職場をあげて危険個所を発見し、速やかに

労働災害防止対策を講じることを通じて事業場の安全意識を醸成することが重要であるという観点から、「危険見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場」となっています。

日造協では協会名入りポスターを作成しています。どうぞご活用ください。



平成27年度

通常総会

講演会・意見交換会

6月23日(木) 14:00～

グランドアーク半蔵門

東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

水という貴重な資源

水は、地球に存在する多様な生命の源である。「水の惑星」といわれる地球の表面は3分の2が水に覆われ、14億立方kmといわれるが、大部分は水や氷河で、地下水や河川、湖として存在する淡水は0.8%、さらに人が直接使用できる水はその0.001%に過ぎない。

世界の総人口は推計70億5200万人で、人口増加とともに、水需給が逼迫している地域も増加し、絶対的な水不足の状態にある国は47カ国、約7億人もの人々が水ストレスの限界点以下の生活をしているといわれている。

日本は、水道の蛇口をひねれば、きれいで安全な水を得ることができ、降雨量も世界平均の約800mmの2倍、約1700mmで、インドネシアの約2700mmを1番としてシンガポール、フィリピン、ブラジル、ニュージーランドに続く6番目であり、近隣国と接していないため、水紛争も身近な問題ではないと感じられるのではないだろうか。ちなみにアメリカ、ドイツは降水量800mm以下で日本の半分程度である。

しかし、理論上人間が最大限利用可能な水の量で、降水量から蒸発散量を引いた「水資源賦存量（水資源量）」では、ロシア、アメリカ、カナダ、中国などの大面積の国々と逆転し、国民一人当たりの年間降水量と水資源量をみると、日本は27番目、一人当たりの水資源量では23番目となり、いずれも世界平均を下回っている。

これは、面積では世界のわずか0.2%の国土に2%もの人々が暮らしているこ

とが明確に示されたデータであり、日本の水資源は決して豊かではないと考えなければならない。

日本人が1日に使用する水の量は、245ℓ/人であるが、飲料用は2～3ℓ程度にとどまり、大半は、風呂、トイレ、洗濯などの洗浄用に使用されている。

さらに、食料や工業製品の輸入は、生産地で多量の水資源を消費することであり、間接的には世界各地から水を輸入していることになり、国内の生活用水、工業用水、農業用水の年間総取水量と同程度の量となっているという。

このような現状を背景として、水が人類共通の財産であることを再認識し、水の恵みを将来にわたり得られるよう、健全な水循環の維持と回復など、水循環に関する基本理念を明らかにし、総合的かつ一体的に施策を推進するための「水循環基本法」と、水資源の有効な利用と下水道、河川等への雨水の集中的な流出の抑制に寄与することを目的とした「雨水の利用の推進に関する法律」が平成26年4月に制定された。

造園技術を雨水循環に活かす

造園工事は、自然の風景や仕組みを注意深く観察し、人にとって心地よい空間を創出しているが、その主要な工種である植栽や、池や流れなどの水景施設など水とのかかわりが深い建設業である。

なかでも植栽は、うるおいと安らぎを提供する造園空間になくしてはならないものであり、いきものである植物にとって、地中の水分を根から吸い上げ、体内の細胞に蓄え、上部の葉で光合成と蒸散を行

水循環基本法（平成26年4月2日法律第16号）

水は生命の源であり、絶えず地球上を循環し、大気、土壌等の他の環境の自然的構成要素と相互に作用しながら、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与え続けてきた。また、水は循環する過程において、人の生活に潤いを与え、産業や文化の発展に重要な役割を果たしてきた。特に、我が国は、国土の多くが森林で覆われていること等により水循環の恩恵を大いに享受し、長い歴史を経て、豊かな社会と独自の文化を作り上げることができた。

しかるに、近年、都市部への人口の集中、産業構造の変化、地球温暖化に伴う気候変動等の様々な要因が水循環に変化を生じさせ、それに伴い、渇水、洪水、水質汚濁、生態系への影響等様々な問題が顕著となってきている。

このような現状に鑑み、水が人類共通の財産であることを再認識し、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、健全な水循環を維持し、又は回復するための施策を包括的に推進していくことが不可欠である。

ここに、水循環に関する施策について、その基本理念を明らかにするとともに、これを総合的かつ一体的に推進するため、この法律を制定する。

雨水の利用の推進に関する法律（平成26年4月2日法律第17号）

(目的)

第一条 この法律は、近年の気候の変動等に伴い水資源の循環の適正化に取り組むことが課題となっていることを踏まえ、その一環として雨水の利用が果たす役割に鑑み、雨水の利用の推進に関し、国等の責務を明らかにするとともに、基本方針等の策定その他の必要な事項を定めることにより、雨水の利用を推進し、もって水資源の有効な利用を図り、あわせて下水道、河川等への雨水の集中的な流出の抑制に寄与することを目的とする。

学会の目・眼・芽 第67回

東北で考えた学会と日造協の連携

(公社)日本造園学会東北支部長 東北公益文科大学教授 温井 亨

三題噺ではないが、今、東北支部大会を開催するに当たり、3つのテーマが頭の中を廻っている。「東北における学会と業界の連携」、「造園業の現状」、「造園・ランドスケープ分野のこれから」の3つである。

◆
最初のテーマは、東北支部のために発想したものであり、日造協の皆さんにも支部大会に参加してもらえないだろうか考えたことが元になっている。

そのためには日造協の皆さんに関心を持ってもらえる大会でなくてはならない。そこで考えたのが、第2、第3のテーマである。

東北支部の副支部長はむつみ造園の榎さんだし、日造協の皆さんも重要なメンバーである。しかし他支部に聞くと、もっと積極的なところもある。そこでここでは、今参考にしたいと思っている九州支部について書いてみたい。

◆
一方、公共造園の発注が減っているなかで、造園・ランドスケープ分野のこれからは大丈夫かという第2、第3のテーマは、昨年と今年の2年にわたり、全国大会のミニフォーラムで議論されたテーマと重なるので、その概要を紹介したい。

◆
東北支部は会員が100人に満たない小さな支部であり、また東北には造園のある大学がほとんどない。そのため支部大会の参加者が20人前後しかいないことも多い。

東北6県で順繰りに開催しているが、会員の半数が仙台なので、仙台を離れると役員しか集まらないのが現状である。

◆
それに対して九州支部では、日造協を中心とした大勢の民間の方、行政の方が参加しているらしい。昨年、福岡で行われた全国大会では、その一端が

特集 造園技術を活用し

い、栄養分を巡らせて良好に育成するために水は必要不可欠である。

植物は、水を利用するとともに、その生育地では落葉が雨水が浸透しやすい土壌を作り、根により地下深くへ雨を運ぶ道を作ることで、地中の生物とともに生態系を形成し、地下水の涵養にも貢献している。

◆
このような機能を持つ植物や、植栽地による水循環に着目し活用し、環境への影響を抑えた開発手法がある。

「低影響開発」手法は、貴重な資源である水を有効に利用し、下水道や河川への集中的な流出を抑制することを目的として、環境への負荷をできるだけ小さくしつつ、人にとって快適な環境を創出するための手法でありLow Impact Development(以下LID)と称されている。LIDは、開発された土地で可能な限り雨水を管理するため、自然と連携した開発の方法である。

◆
従来の雨水を流して処理する方法から、一滴の水をできる限りその場で浸透させ有効利用しようとするものであり、浸透機能を確保するだけでなく、その土地の景観的な特性を取り入れるとともに、植物を活用したグリーンインフラ施設としてデザインされる。

◆
造園的なLID施設は、個人邸から公共空間までを対象として、雨樋からの水を地表に誘導して浸透させる施設や、雨水を集水しやすい地形のアンジュレーションと植栽により雨水浸透性を高めた造園空間、屋上緑化、透水性の舗装などが含まれ、雨水を地下に浸透させるだけでなく、植物の蒸散作用による大気への水循環も考慮されている。

◆
この手法は、新たな開発地だけでなく再開発や既存施設の改修でも取り入れることができるため、LIDを推進しているアメリカ合衆国環境保護庁(US-EPA)(<http://water.epa.gov/polwaste/green/>)では、LIDによる開発手法の考え方や計画～施工の方法と事例報告や造園施設として展開させたグリーンインフラの具体的な情報など多くの資料が公開されている。

◆
US-EPAによれば、グリーンインフラ垣間見られて驚き、また感動した。

◆
どこに驚いたかという、それは交流会である。その盛会であったこと！ふだんの全国大会の倍の参加者と言っ

◆
ては言い過ぎだろうか。会場は人であふれていたが、その増えた分は、どうも日造協の方々だったらしい。それも福岡ばかりでなく、九州各県からの参加者があったようだ。

◆
また、料理がおいしかったが、おいしいだけでなく、バラエティに富んでいた。日造協の皆さんが各県の地酒を持って来たとのこと。この賑わい、どうも支部大会の延長にあるようなのである。

◆
ミニフォーラムの議論は2つに分かれた。業界からの発言は、施工も設計も暗い話であった。公園も庭も仕事は減っている。行政からも、公園の部署は縮小される傾向にあるとの報告だった。

◆
一方、学が用意した話題は反対に、造園・ランドスケープ分野の未来は明るいというものである。社会のニーズ

◆
とは、自然のプロセスを参考にして、浸透と蒸発や植物からの蒸散によって大気へ水を循環させ、開発された土地の雨水を再利用するものである。と定義されている。

◆
また、LIDの情報を発信し、普及啓発を行うLIDセンターは1998年に創設され、低負荷形の開発に関する設計、施工技術や様々な事例の紹介を行うとともに、設計基準やマニュアルの提供を行っている(図1、2)(<http://www.lowimpactdevelopment.org>)。

◆
このように、アメリカ合衆国では、官民のプロジェクトによる多くの事例が蓄積され、導入に当たっての解説や標準設計などが公開されている。

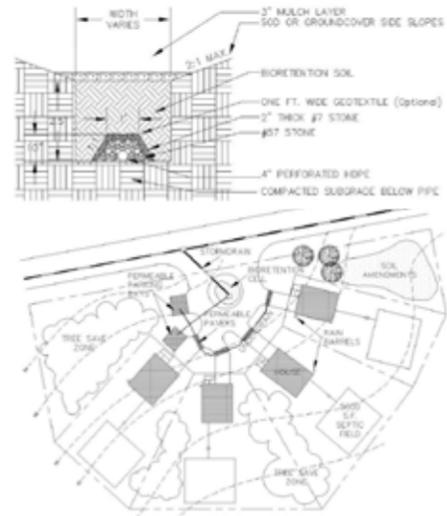


図1、2 webで公開されているLIDの計画手法や標準構造図 ©US-EPA

アメリカ合衆国のLIDとグリーンインフラ

◆
LID手法は、都市での活用が効果的であり、個人や公共空間の植栽空間や街路樹にも応用することができ、アメリカ各地で導入されるようになった。

◆
ショッピングモールの駐車場には、舗装面の雨水を植栽地へ誘導し、一時貯留させて生物的ろ過を行うことで雨水を浄化し緩やかに雨水処理をする施設がよく見られ(図3)、「バイオフィルターシステムによる雨水浄化システムなので立入りをご遠慮ください」と書かれたサインが設置されている(図4)。

◆
アメリカで一番住みたい都市の1位とはたくさんあり、これからの社会ではまさに造園・ランドスケープ分野の知識、思考、技術が求められているというのである。

◆
ただし、それはコミュニティ・プランナーであったり、これからの農村におけるランドスケープの重要性であったり、歴史まちづくりや文化的景観であったり、どれもこれまでの仕事とは異なっている。

◆
しかし対応できていないのは業界ばかりではない。コミュニティ・プランナーの課程を終えても、NPOか公務員くらいしか就職口がないのではないかと質問したら、そのとおりですと発表者の先生も言う。まだ金に結びついていないのだ。

◆
東北支部大会でも結論はでないであろう。しかし、九州支部のように一緒に交流できれば、何か新しい知恵が浮かぶかも知れない。三題噺に落ちが付き、うまくまとまるようにと願っている。

た雨水循環に向けて

(一社) 日本造園建設業協会 技術調査部長 野村 徹郎



図3 駐車場の雨水を浸透させる植樹帯



図6 調整池と一体となった公園



なっているポータル市では、グリーンストリートプロジェクトが推進されていて、いたるところで植栽地を地表面より下げることによって雨水を

図4 駐車場の看板 導入し浸透させる施設を見ることができる(図5~7)。

蚊や害虫の発生を心配する声もあるが、基本的には24時間で表面の水を浸透させるためその場での発生は起きていないそうである。



図5 グリーンストリートプロジェクトサイン



図7 舗装面より低い植栽地



図8 車道の雨水を敷地や植栽帯に導く施設

日本でもLID的オープンスペースが出現

国内でもLID的考えを取り入れたオープンスペースが各地に出現し始めた。

例えば、北九州市では、八幡東田グリーングリッド事業の、緑・水・風により雨



図9 八幡東田グリーングリッドの浸透植栽地



図10 都市高速道路高架下の植栽



図11、12 北九州大学の駐車場と徐々に浸透させながら流末へ流れる排水路

水を蒸発、浸透させるランドスケープ(図9)や、都市高速道路の雨水を活用した高架下の緑化(図10)、北九州市立大学の雨水浸透を取り入れた駐車場や排水施設などがある(図11、12)。

高温多湿で降雨量の多い日本で、LID手法を取り入れたグリーンインフラ施設を実現するためには、海外の事例を参考にすることでなく、日本の気候風土を十分に考慮して取り組むことが必要である。

そのためには、植物の特性や生育地の条件に合わせた適切な植物の選定と、植物の良好な生育のための植栽基盤整備などの造園技術とともに、浸透施設や気象学なども含めた幅広い知識と技術を欠かすことができない。

日造協では、すでにLID関連の資料収集や、技術者の育成、市場開発に向けた検討を開始している。

近年増加している集中豪雨の被害防止や河川、海の水質向上に少しでも貢献できるように、今後もさらにLIDに関する技術情報の蓄積と発信を行うとともに、設計、施工、管理に関する知識と技術を持った造園技術者を育成し、造園技術を活用して健全な水循環の維持に役立てるよう取り組みを続けたい。

参考資料

United States Environmental Protection Agency HP
Low Impact Development Center HP
国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部 HP
水循環政策本部 HP / 国土交通白書

地域リーダーズ 沖縄研修を実施 全国から64名参加 知見と交流深める



地域リーダーズの沖縄研修は2月15日、16日に沖縄で開催され、64名の若手経営者・幹部の方々が集まりました。

初日は、沖縄における地域景観保全の取り組みについて学んだ後、交流会が実施され、全国の地域リーダーズを中心に、積極的な情報交換や交流を行いました。

2日目は、首里城石積復元の現場視察、海洋博熱帯ドリームセンターの蘭展、普天間基地にて、緑地やオスプレイを見学し、その後、さらに交流を深めるため、2回目の懇親会を行いました。

全国の方々との交流を通して、新たな情報や刺激、また、業界活動に対する理解が得られた大変有意義な研修で、大阪府支部で、そのようすをまとめましたので、ご覧ください。(大阪府支部 當内匡)

1. 講演会

講演会は、「沖縄の風景 人材育成の取り組み」をテーマに、NPO法人沖縄の風景を愛さる会の佐藤努副理事長を講師に行われました。

今回の講演は、戦争により多く壊れてしまった地域の歴史的な景観を再生しようとする取り組みについてでした。

講演では、平成17年に景観緑三法が

全面施行されて以来、日本全国で良好な景観を形成する取り組みが行われているが、沖縄の取り組みもその一環として行われており、景観整備機構は、良好な景観形成に主体的に取り組む団体として行政が指定するものだが、沖縄県では、(公社)沖縄県建築士会と(一社)沖縄県造園建設業協会の2団体が登録されている。

沖縄の風景を愛さる会は、両団体を主体に組織され、積極的に景観形成の取り組みを行っており、こうした取り組みを通じて、沖縄県造園建設業協会が少しでも造園工事を増やしていこうと頑張っていることを学んだ。(當内匡)

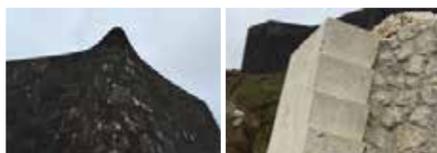
2. 交流会

交流会は、北海道支部から沖縄県支部まで総勢60人あまりの参加があり、地域の枠を超えた交流会となりました。

沖縄総支部の森根清昭総支部長の乾杯を皮切りに歓談の中、各総支部の地域リーダーが壇上に上がり、支部報告を行い、その後、他支部との交流を深めることができ、有意義な時間を過ごすことができました。(長尾行晃)

3. 首里城の石積み修復工事現場見学

第二次世界大戦で首里城は、日本軍の



頭石⑤と首里城石積用の琉球石灰岩⑥

司令部が置かれていたため、米軍艦隊からの猛烈な砲撃を受け、大部分が破壊されました。その後、跡地には琉球大学が建設されましたが、大学の移転に伴い首里城跡を中心とした史跡指定区域の戦災文化財の復元と史跡周辺の公園整備事業が開始されました。

首里城の石積みは、優美な曲線で構成され、頭石(すみがしらいし)を設置することなどが特徴で、加工が容易な琉球石灰岩で築かれています。

主な積み方は、長方形に切り出した石を横目地が通らないようL字に加工して組み合わせた「布積み」、五角形か六角形に加工し、組み合わせ、一つの石材が抜け落ちて周囲の石が噛み合い崩壊を防ぎ、部分的な修復が可能である「相方積み」、首里城の中で最も古い積み方の「野面積み」の3つとなっています。

今回の修復工事現場見学で、一番驚いたのは加工方法で、一般に間知石などの石積みは、控えを落とした角錐になっており、容易に曲線を出せますが、首里城の城壁に使用している琉球石灰岩は控えを落としておらず曲線を出すのは難しく、裏込めもコンクリートやモルタルを使用しない空積みになっていることも特徴の一つとなっています。(金城康弘)

4. 海洋博熱帯ドリームセンターの蘭

海洋博公園(77ha)のうち、ドリームセンターは4haで、年間来場者は30万人。この時期、沖縄以外で花の展示は難しいと思われませんが、沖縄では花の見栄えがいい時期とのことで、園内は22日まで花まつりが行われており、30万



海洋博熱帯ドリームセンターの園内鉢が展示されていました。

センターに展示してある草花のほとんどは鉢のまま、季節ごとに入れ替える手間の軽減と台風などで傷んだ花をすぐに取り替えられるようにするためのこと。展示している蘭の多くは、東南アジアやマレーシア、台湾から輸入し、センターで寄せ植えにし、周年花を鑑賞できるよう開花を調整。管理は企画提案の指定管理で、国から(一財)沖縄美ら島財団が受注しているとのことでした。(矢野真也)

5. 地域リーダーズ沖縄研修の感想

今回の地域リーダーズ勉強会において、全国の同業者と会うことができ、様々な情報交換を行うことができた。特に北海道支部からの参加者が20人以上と多く、普段話せない人たちとの交流という面でも貴重な経験だった。

気温は20℃を超え、2日目は歩くと汗が出るほど暖かく、落葉樹も2月とは思えないほど葉を残している状態だった。街路樹や庭先の植木も関西とは大きく異なり、見たこともない木も多くみられ、枝の伸び方も変わっており、幹の先端付近まで枝がなく先端部分から真横に枝が伸びていた。

講習会や見学では、多くのことを学ぶことができ、沖縄の文化や風景の保存という面からも大変興味深い内容でした。2日間の研修を通し、さまざまな知識の収集や多くの人と接することができました。(田中康太郎)

遂に松江城天守が国宝に！
(島根県松江市)

平成27年5月15日、日造協島根県支部の総会終了後、「松江城天守 国宝指定に答申」という嬉しいニュースが飛び込んできました。

これまで、松江城の国宝指定の動きは何度かあり、松江開府400年祭（平成19年から5年間実施）を契機に、12万人を超える署名が集まるなど、地域住民の悲願となっていました。

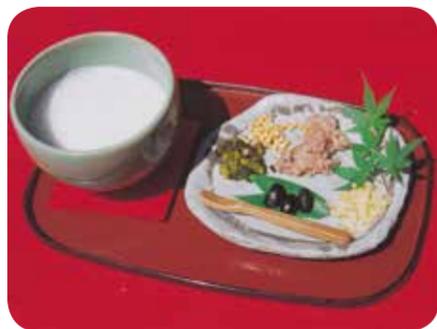
しかし、国宝指定に向けては天守の完成年に関する証拠が乏しいという問題もあり、松江市では賞金500万円をかけ、築城年を記した「祈祷札」を大捜査。もしかして、祈祷札は我が家にあるかも…と、自宅の古い倉庫を探した人もいたとか、いないとか。

その後、奇跡的に松江神社で祈祷札が発見され、札には慶長16年（1611年）を示す文字が残っていたそうです。

我が国の国宝天守閣である松本城（長

野）、犬山城（愛知）、彦根城（滋賀）、姫路城（兵庫）の4つに松江城が加わることで『国宝五城』に、実に63年ぶりの国宝指定となりました。

松江城ゆかりのご当地グルメといえば、「ぼてぼて茶”です。茶せんで泡立てた番茶のなかに、おこわ、煮豆、刻んだ高野豆腐、漬物などを少量ずつ入れたもので、箸を使わず、茶碗を震わせながら一気に口に放り



松江城主・松平不味公も食したぼてぼて茶



松江城のお堀を周遊する堀川遊覧船①



国宝化を喜ぶ、まつえ若武者隊のメンバー（松江城を案内してくれます）②

込むように食べるのが”通”だそうです。

ぼてぼて茶の由来は諸説ありますが、松江城主・松平不味（ふまい）公が鷹狩りに出かけた際に飲んでいたとも言われており、やがて庶民の間に広がると、仕事の合間に立ったまま食べられる間食や非常食として根付いたそうで、今でいうところのファーストフードの走りだったかもしれません。

ちなみに”ぼてぼて”というのは、番茶を独特の茶せんで泡立てる際に生じる音から名付けられています。松江城周辺には、ぼてぼて茶を堪能できるお店がありますので、松江城にお越しの際はぜひ、お立ち寄りください。

◆ この他にも水の都・松江市には、多くの観光資源があります。



宍道湖の夕日と嫁ヶ島



宍道湖を歩いて嫁ヶ島に渡るイベント（今年は8月1日開催 参加者募集中）

感動的な宍道湖の夕日、神秘的な嫁ヶ島、美肌県1位を支える玉造温泉、日本最古の大社造りである国宝・神魂神社など、書き始めると枠が足りませんので、松江観光協会のホームページをご覧ください。

島根県全体では、松江開府400年祭（平成19～24年）、60年ぶりの出雲大社大遷宮（平成20～25年）、高円宮典子さまと千家国麿さんの御結婚（平成26年）、津和野百景図の日本遺産認定（平成27年）など、伝統文化歴史に関する話題が続いており、松江城天守の国宝化も地域活性化の起爆剤になることを期待したいところです。

みなさん、島根でまっちょりますけんね～（みなさん、島根で待ってますよ～）

小立亮（有）小立造園

事務局の動き

【5月】

- 8 (金)・植栽基盤診断士補研修会の講師説明会～5/9
- 12 (水)・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
・総務委員会（広報活動部会）
- 13 (木)・運営会議
- 20 (水)・総務委員会（財政・運営部会）
- 21 (木)・アンタルヤ国際園芸博覧会日本庭園出展実行委員会設立準備会等
・四国総支部「担い手3法等講習会」
- 22 (金)・監事監査
- 26 (水)・技能五輪全国大会に係る合同委員会
・植栽基盤診断士認定委員会
- 28 (木)・総支部長等会議
・第1回通常理事会
- 29 (金)・登録造園基幹技能者制度推進協議会 総会
- 30 (土)・第26回全国「みどりの愛護」のつどい

【6月】

- 1 (月)・技能五輪競技委員会
・造園・環境緑化産業振興会事務局会議
・まちづくり月間 ～6/30
- 4 (木)・全国都市緑化よこはまフェア実行委員会設立会議・総会
- 8 (月)・技術委員会（技術・技能部会）

- 10 (水)・IFPRAジャパン理事会及び総会
・総務委員会（広報活動部会）
- 11 (木)・技術委員会（安全部会）
- 16 (水)・アクションプログラム推進等特別委員会
（女性就業促進検討特別部会）
- 23 (水)・運営会議
・通常総会、意見交換会
- 24 (木)・地域リーダーズ勉強会

委員会等の活動

- 総務委員会（財政・運営部会）
平成26年度事業報告及び決算報告、公益目的支出計画実施報告書について審議した。(5/20)
- 資格制度委員会
「植栽基盤診断士補研修会」の講師を対象に、「植栽基盤整備ハンドブック」の改訂に伴う改訂内容の周知、および同研修会の研修内容の平準化を目的に説明会を行った。(5/8-9)
植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）を開催し、「植栽基盤診断士補研修会」の研修内容の検討と、修了試験の出題基準を設定し、試験問題の作成と採点基準を設定した。(5/12)
植栽基盤診断士認定委員会を開催し、「植栽基盤診断士補研修会」修了試験の試験問題及び採点基準を審議した。(5/26)

造園安全衛生管理の手引き
現場に役立つ内容に5月リニューアル

本書は、「造園安全衛生管理の手引き」（平成8年初版）の2015年度改訂版です。

今回の改訂版では、技術委員会の安全部会において、法令関係の充実や労働災害の実態調査結果を盛り込み、現場での実効性を高めました。

特に、造園建設業の「安全衛生管理の重要性」、「法令関係」と「事業者（企業）の安全衛生対策」など、造園作業の実態を踏まえた「現場の安全衛生対策」「安全基準」「事故・労働災害発生時の対応」の掲載など、現場の安全水準を向上させ、労働災害、事故防止に役立つ内容です。

購入を希望される場合は、日造協ホームページの『図書紹介』ページからご注文いただけます。



編集後記 全国各地で梅雨入りとなり、ジメジメとした日々が多く、時には雨を恨めしく思うこともあります。今月号の特集を読んで、雨水の大切さを再認識していただければ、雨の日もまた楽しからずやです。



桜島と木市のある街

(有) 勝 向井 緑 初美

私の生まれ育った鹿児島市は世界有数の活火山桜島を望む雄大な自然が広がる街です。

篤姫や西郷隆盛、大久保利通など多くの偉人を輩出し、黒牛、黒豚、黒さつま鶏のほか芋焼酎などのグルメも有名です。

鹿児島市の街が他の都市と圧倒的に違うところは、桜島が1日に多いときは何十回も噴火し火山灰が降ることです。今年も4月までの時点で噴火回数が779回を記録しています。

テレビの天気予報では火山灰がどこの地域に降るかわかるように桜島上空の風向きが表示されたり、克灰袋という火山灰収集専用の袋が市から無料配布されたり、噴火情報をメールで配信するサービスがあったりと桜島の火山活動は鹿児島市民の生活と密接な関係があります。

洗濯物を干せなかったり、街中が灰だらけになったりするのは日常茶飯事で、ひどいときは砂埃で視界が悪く交通渋滞が起こるなど、生活する上で不便な面も多いですが、街のシンボルとして欠かせない存在です。

鹿児島市の中心部で昭和30年代から毎年春と秋に行われる「木市」は、鹿児島を代表する伝統行事です。造園業を営む我が家は祖父の代からこの市に出店しており、私も幼い頃から慣れ

四つ目垣講習会のようす①春の木の市②



モデル庭園

親しんできました。植木・園芸植物・果樹苗・野菜苗・金魚・鳥などの販売や様々なイベントも行われており、一般の方にも造園技術を体験してもらおうという趣旨で開かれる四つ目垣の講習会には私も講師として参加しました。参加された方々も慣れない作業で四苦八苦されていましたが、笑顔で楽しみながらやっていたのが最高の喜びでした。

近年、マンション暮らしや庭園のない住宅が増え、造園の仕事も減少傾向にあります。私は現代のライフワークや地域性に特化した庭づくりに邁進していきたいと考えています。



桜島